

目次

1 巻頭言	尾池 和夫
2 連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第6回	知識の源泉は本と人だった…山極 壽一
4 連載「氷河からアマゾンまで」第5回	見えないカワイルカを音で「見る」…幸島 司郎
6 連載「生態学者が往く」第2回	インドネシア・ウジュンクロンの旅…湯本 貴和
8 連載「自然と芸術」第6回	絵筆をもった類人猿…齋藤 亜矢
10 連載「大型類人猿探訪」第9回	親子のなりたち:後編…林 美里
12 連載「サルに住む森」第9回	何度も味わうテングザル…松田 一希
14 連載「ウマ学ことはじめ」第9回	ウマの群れ間関係…山本 真也
16 連載「海外生息地研修」第9回	ニュージーランドの旅:アホドリ、ペンギン、オットセイ…松沢 哲郎
18 連載「環境教育実践」第9回	プリマーテス研究会 中高生の研究発表…新宅 勇太
20 連載「霊長類学70周年」第2回	空から見る幸島…舟橋 昂
22 飼育下ゾウの福祉に対する4つの指針	ラマン スクマール
24 ニホンザルからアフリカのサルへ:「種間相互作用」を追いかけて	峠 明杜
26 書評 「世界で一番美しいサルの図鑑」…湯本 貴和・「野生チンパンジーの世界」…伊谷 原一	
28 ご寄附のお願い・イベントのご案内	

■表紙の言葉

志賀高原の地獄谷野猿公苑（萩原敏夫苑長）の温泉に入るニホンザルである。長野電鉄の職員だった原莊吾さんが、地獄谷の後楽館という温泉宿の女主人の竹節春枝さんらの協力を得て、1962年9月12日に餌付けに成功した。その年の冬に、1歳半から2歳半の子ザルたち4頭が後楽館の露天風呂に入るようになった。原さんの『野猿物語：ただいま入浴中』（信濃路）や、和田一雄さんの『野生ニホンザルの世界』（講談社）に詳しい。2018年4月に、日本モンキーセンターの国際英文誌 PRIMATES に、霊長類研究所の研究員のタケシタ サユリさんらの論文が掲載された。寒いときに入って温まるだけでなく、入浴にはストレスを低減させる効果があることを糞中コルチゾルの測定で実証した。第11回アニマルフォトコンテストの入選作品、森研人（もり・けん）さん 2015年1月31日撮影を表紙に選んだ。



松沢 哲郎 まつざわ てるお

京都大学高等研究院・特別教授。霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院のコーディネーター。公益財団法人日本モンキーセンター・所長。中部大学創発学術院・特別招聘教授。京都造形芸術大学文明哲学研究所・所長。

巻頭言

尾池 和夫（京都造形芸術大学）

芸術系の京都造形芸術大学で、チンパンジーを研究する松沢哲郎さんが、この大学附属の文明哲学研究所の所長をつとめ、同じくその仲間の齋藤亜矢さんが、その研究所の専任教員であるというのが不思議だという方がおられました。その文明哲学研究所のことを少し紹介したいと思います。

この大学は、創設者の故徳山詔直の提唱した「芸術立国」の基本理念のもとに教育、研究、社会貢献の活動を行っています。本学人間館の入り口に「芸術立国之碑」があり、「宇宙の神秘に平伏せ、地球の偉大さに畏れを抱け、生きとし生きる命を愛し尊べ」とあります。宇宙や地球、そして人類のことを学生たちに学んでもらうために「自然と芸術」という講義で、文明哲学研究所の松沢哲郎さん、齋藤亜矢さん、田中勝さんにも参加して講義をしてもらいます。田中勝さんは、「芸術平和学」を研究テーマとし、芸術平和学会の中心的活動を進めています。人間とは何か、芸術は平和にいかに関与するか、と考えるのがこの研究所の役目です。

宇宙や太陽や、月や地球のことをしっかりと科学的に理解した上で、芸術やデザインの活動をすることが大切です。その上で、自然を超越した作品を創出してほしいと、学生たちに私は期待しています。人類は自然の恩恵のもとに暮らしていますが、自然に対して、芸術やデザインは、純粋に人工的な創造物です。単なる自然の模倣であっては創造的作品とは言えません。そのためにも、学部での教養科目の

中で、自然をまずしっかりと理解しておいてほしいと思います。

講義の中で、私自身もずいぶん学ぶことがありました。例えば、人類の2足歩行の歴史です。昔、4つ足の動物が後ろ足で立ったと教えられた記憶がまだ鮮明に残っていますが、松沢哲郎さんたちは、そうではないと講義で話します。4つの手で森の木にぶら下がっていた人類の祖先が、後の手で立つようになったということです。この認識の違いは大きく、あらゆる面に影響します。個人の体の鍛え方にも、この基本的な知識が影響することになるでしょう。

京都大学野生動物研究センターが今年10周年を迎えます。京都市動物園は研究する動物園として認定されています。日本モンキーセンターは研究のためのサル類動物園です。これらと芸術やデザインの分野との連携で、世界の平和と人類の福祉に貢献することができる、私は思っています。



尾池 和夫
おいけ かずお

京都造形芸術大学学長、公益財団法人日本モンキーセンター理事長、静岡県公立学校法人理事長。東京で生まれ高知で育った。1963年京都大学卒業後、京都大学助手、助教授、教授を経て第24代京都大学総長、国際高等研究所所長、2013年4月から京都造形芸術大学学長。著書に「新版活動期に入った地震列島」「日本列島の巨大地震」「四季の地球科学」「2038年南海トラフの巨大地震」「あっ！地球が…」「句集 瓢鮎図」など。